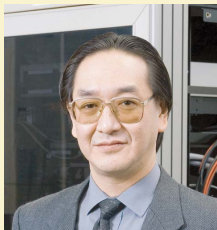


インフォメーションディスプレイ Vol.4



三田インフォメーション
テクノロジーセンター
事務長

落合 啓一氏

慶應義塾大学 様

5つある慶應義塾大学キャンパスの一つ、三田キャンパスでは文科系の専門課程と大学院の学生達が学んでいます。敷地内には、国の重要文化財に指定されている三田演説館や図書館旧館など趣のある建物が並び、また都心にありながら大銀杏など豊かな緑にあふれた、歴史と伝統を感じさせるキャンパスです。

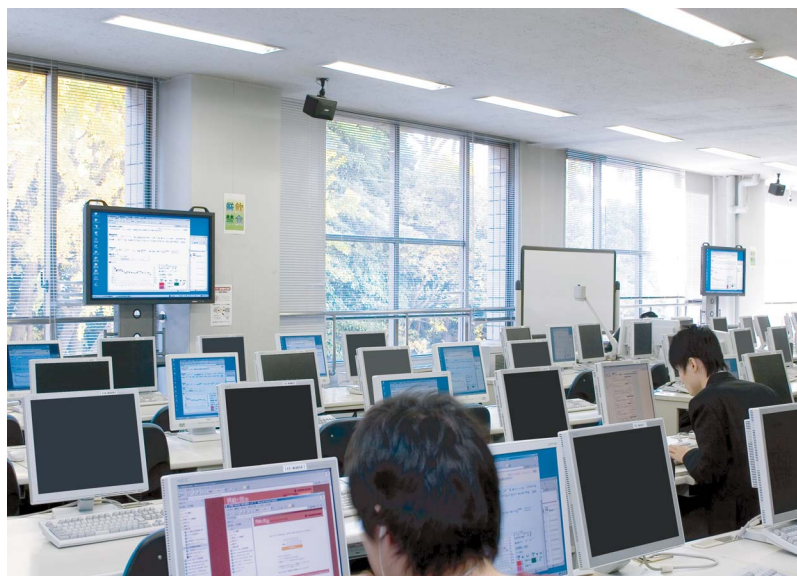


所在地:港区三田

大学院棟のパソコン室において、 パソコンとの親和性が高く、高解像度の 鮮明な画面が、講義や演習時に活躍。

PN-455
2台導入
(パソコン室)

慶應義塾大学様の三田インフォメーションテクノロジーセンターでは、三田キャンパスにおいて学生や先生方が使用するコンピューターやIT系のインフラなどの設備を管理されています。今回設置された文科系の専門過程と大学院の講義や演習に使用するパソコン室では、パソコンの画面を表示することが主な用途になるため、液晶であること、また、高解像度であることなどを評価され『PN-455』を導入されました。



横に長い331教室には、約70台のパソコンが設置され、休み時間にも学生達の利用が絶えない。教室のいちばん後ろからでも『PN-455』の鮮明さがよくわかる。

導入時の評価ポイント



パソコンの画面を映すのには最適な液晶で
しかも**1,920×1,080画素**の高解像度



窓が大きく、日が差し込む教室内でも
明るく鮮明に見える画面

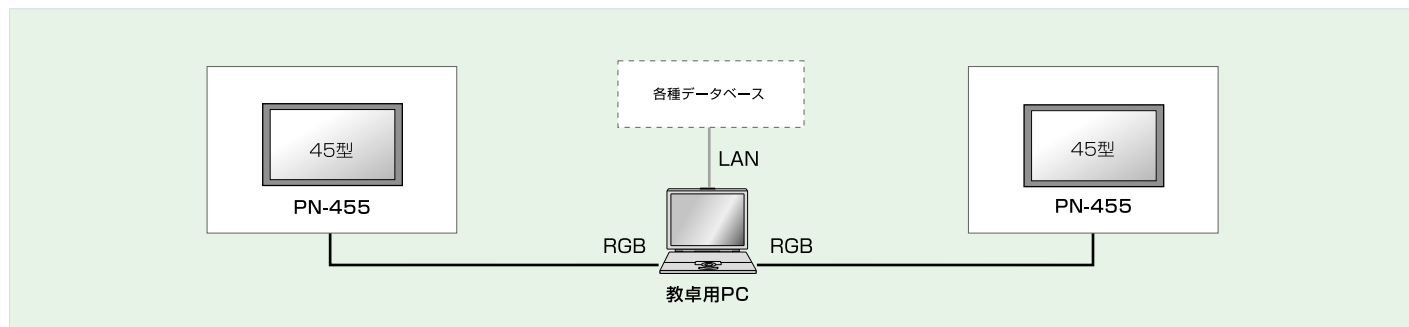


後列の席に座っていても
先生方の意図が伝わる**45型**の大きさ



教卓側の両脇の狭いスペースにも
設置しやすい**薄型**のデザイン

■ システム概略図



導入の経緯

パソコン室のリアプロジェクターをリプレースする時期にあたって、液晶であることは必須で、あとは大きなサイズの登場を待っていた。

慶應義塾大学様では、約10年前に構内LANを整備され、これまでに表示装置としてリアプロジェクターやプラズマディスプレイを導入されてきました。教室など広い場所での上映には大きなサイズのものが欠かせないと、落合氏はおっしゃいます。「もともとパソコンの情報を映し出すには、液晶が最適だという認識は持っていたのですが、サイズの的に物足りなかった。」今回45型というサイズと1,920×1,080画素の高解像

度という点が実現されているということで、スムーズに『PN-455』の導入を決められました。さらに、決定の際の大きな要素として、「亀山製の液晶。」ということも挙げられています。AQUOSで好評をいただいている、液晶そのものの品質への評価が、機種選択理由としても学内の賛同を得やすかったようです。

どの席からでも左右どちらかの『PN-455』が無理なく見られるように設置されている。



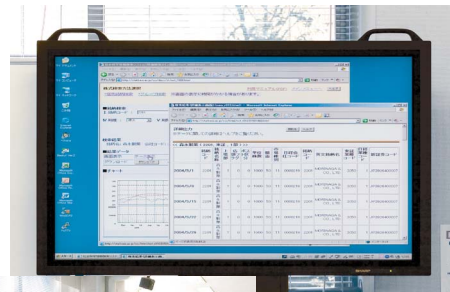
導入後の感想

明るい教室内でも鮮明な表現力はもちろん、学生達からはより見やすい位置に設置でき、以前よりも有効に活用できている。

先生方が作られたテキストや図表などはもちろん、WEBベースのデータベースにアクセスして情報を表示するときなども、パソコン表示との親和性が高いため、文字のエッジがにじみにくく、くっきりと表示され講義で活躍しているそうです。「この表示精度とパソコンとの連携という点で、十分満足しています。また、本体重量も軽く、可動式の

スタンドにしていることもあり、必要な教室への移動なども容易に行なえるのでは。」とおっしゃる落合氏。サイズとしてはもう少し大きいものがあったらいいということで、これは今後の課題として検討していかれるそうです。

リアプロジェクターの場合、教室の両端にしか設置できなかったが、『PN-455』では、教卓の横などより見やすい場所への設置が可能に。



日が射す教室でも鮮明にデータ等を映し出す「PN-455」。



今後の展開予定

より大きなサイズなど、順次、液晶ディスプレイを導入していきたい。

すでに別のパソコン室への導入も検討されるなど、パソコンのデータを映し出すモニターに関しては、リアプロジェクターやプラ

ズマから45型やそれ以上のサイズの液晶ディスプレイへの置き換えを進めて行かれるご予定です。



●お問い合わせは シャープ株式会社

情報通信事業本部 ディスプレイソリューション推進センター

〒639-1186 奈良県大和郡山市美濃庄町492番地 電話：(0743) 55-6373

2006年1月発行